

川西町玉庭地区（ふるさと総合センター活用委員会） 概要

1 地区の概要

- 川西町玉庭地区は、119年前に玉庭、朴沢、大舟、上奥田の各村が合併して玉庭村が誕生、そして昭和30年に川西町となり現在に至る。
- 玉庭地区は、新幹線米沢駅から北西へ約10kmに位置する。
- 川西町の人口は18,769人(平成17年国勢調査)、高齢化率は約30%。

2 現状と課題

- 川西町玉庭地区では農業のほか、米沢牛の生産拠点として素牛(もとうし)を生産している。
- 川西町では7つの地区ごとに地区計画を策定しており、平成20年3月に策定された玉庭地区の地域づくり計画書では、玉庭の将来像を「愛(め)ぐまれた自然とともに人輝く玉庭」とし、1. 自治会活動と生涯学習推進、2. 産業振興と環境整備、3. 地域福祉と防災安全 の3つの柱ごとに目標を立て、行動計画を推進している。
- 人口減少と高齢化で地域の活力が低下していく中、地域に住む多くの人たちの生きがいの場を創出すること、都市との交流拡大を図ることが課題となっている。
- 20年前から始まった神奈川県川崎市芸術村「あすなろ」との交流(夏期合宿)や、劇団「唐ゼミ」が合宿を行うなどの交流があり、その都度住民の手作りの食事や交流体験メニューなどで対応している。
- このように体験メニューなどのコンテンツは住民が協力して用意しているが、受け入れ施設(宿泊施設)がない。

3 取り組みの現状

- 平成元年に閉校となった山形県立置賜農業高等学校玉庭分校の校舎を活用している。
- 昭和29年に開校した木造2階建ての建物で老朽化も進んでいる。
- 平成元年の閉校後すぐに玉庭ふるさと総合センターとして地域で活用してきた。
- 平成19年4月にふるさと総合センター活用委員会を設立、施設の愛称を「おもいで館」とし、管理を行っている。
- 施設の維持管理には年間60万円程度かかっている。当初より町が継続的に補助してきたが、平成17年4月、行財政改革の一環として施設運営の補助金が廃止となっており、今後施設運営を自立的に行っていくことが求められている。
- 収入は、賃料(芸術家及び劇団より)、夏期のイベント等の事業や施設利用による収入、冬期の地元住民が体育館をゲートボールで使用する際の利用料(ストーブ代程度)である。
- 消防法の対応や耐震性の観点から建物を正式に宿泊施設として利用することができない状況であり、これを宿泊施設として利用できるようにし、維持管理が継続できる程度の事業収入を得る道筋を立てたい。

4 今年度の検討手順

検討会議	検討内容 ※第1回は活動団体ヒアリング(2009/9/10実施)
第2回検討会議 2009.11.10	■老朽建物の宿泊施設への転用支援経験のある建築設計士による助言 ■地域の将来像に関する意見交換
第3回検討会議 2009.11.29	■類似地区における活性化成功事例視察 ー福島県伊達市NPO法人「りょうぜん里山がっこう」視察ー
第4回検討会議 2010.1.7	■検討結果(地域活性化指針)の取りまとめ

5 将来像実現に向けて活動主体が求める情報

【事例視察】

- 老朽化した学校校舎の宿泊施設への転用事例(実際に視察した「りょうぜん里山がっこう」は転用はしておらず、同じ敷地内に別途県の補助事業により簡易宿泊施設として利用可能な交流施設を建設中であった)

【アドバイザー】

- 老朽建物の宿泊施設への転用支援経験のある建築設計士

6 拠点施設の状況と活用可能性

◆老朽化している校舎



- 昭和29年築の木造校舎
- 部分的に改修しながら交流事業の拠点として活用している
- ニーズはあるものの、耐震性や消防法への対応面で現状のままでは宿泊施設には転用困難

課題として



- 施設を宿泊施設として活用するためのアイデア(多額の改修費の負担は困難)
- 宿泊施設として活用する以外の部分も含めた全体の活性化方策の方向性検討

- ◆栗拾い体験ができる栗林、炭焼き体験ができる炭窯が施設に隣接している



7 地域活性化計画の概要

STEP.3 地域への誇り回復

- 地域の知名度向上(地域ブランド形成)
- 安定収益の確保

STEP.2 交流人口の増大と、地域向けの生きがい創出事業の充実

- 情報発信による安定集客
- 地域内部向け生きがい創出活動の充実

STEP.1 活動基盤の強化

- 交流施設としての施設機能の充実
- 他の主体との役割分担の明確化及び連携強化

●当面の課題

- 交流のための基盤(施設、組織)が十分でない中で、住民の協力により、なんとか都市部からの来訪のニーズに対応している状況
- 単価の高い宿泊客を迎えるための施設が必要
- 関連主体との役割分担を明確化し、事業計画に基づく計画的、持続的に運営